

## 海外遠征報告書

15才以下女子 森田 恵美 (REX KOBE)

今回のフィリピン遠征に選ばれた時は嬉しい楽しいという気持ちより、外国で上手に話せるのか友達ができるのかなど不安な気持ちの方が大きかったです。でも帰国した今はフィリピンという国が大好きになり、もっともっと知りたいと思い、絶対もう一度行きたいと思っています。では、簡単にフィリピンでの生活をレポートしたいと思います。

1日目：15年間の人生で初めて日本を出国。約3時間半後にはフィリピン空港到着。聞いていたとおり、そこは南国。ホテルでホストファミリーのバーンズさんと対面。去年も15才の女子2名がお世話になっているので、バーンズさんの家族はとても親切。英語もゆっくり分かるまで繰り返してくれます。14才の娘のモニカは日本語も少し話せてこれから仲よくなれそうな予感。

2日目：いよいよテニスの練習がスタート。午前中はトレーニング、午後からはマッチ。その後ウェルカムパーティ。今日1日だけで一気に友達が増えました。お互い身振り手振りで結構コミュニケーションが取れたと思います。

3日目～5日目：3つの大学で1日中マッチ。試合後は手土産を交換したりして大学生と話をしました。皆ノリのいい人達で笑いのツボも大体同じでした。テニスに関しては、不慣れなシェルコートと出国前からの不調が重なり、シングルスはなかなか勝てず気の重い日々でした。

6日目：マニラ最後の日。夜のサヨナラパーティは歌や踊りなどいろいろな出し物があって、とても楽しい時間を過ごしました。ホストファミリーへのスピーチを聞いたママが泣き出して、そんなにも私たちのことを思ってくれたんだなと胸が熱くなりました。パーティの後、たくさんの新しい友達と最後のお別れをしました。ハグし合いましたが、最高に嬉しく、そしてとても悲しかったです。

7日目：ホストファミリーとお別れ。モニカとのハグ、パパとの握手、そしてママからのハグとほっぺのキスは未だにはっきり覚えています。またいつか会えますように。小型機でマニラからセブ島へ移動。昼からは観光。夜、シャワーの水が出なくて大騒ぎ。セブ島は水が出ない日もあり、日本人が当たり前に使っている水のありがたさを知りました。

8日目：1日中マッチ。ここセブ島はマニラよりさらに暑く、疲れで体調を崩す人も出て、体調管理の難しさを知ることとなりました。でも私はなんとか大丈夫でした。

9日目：フィリピンで最後の練習マッチ。午後からビーチで遊び、ショッピングにも行きました。セブはギターをモチーフにしたお土産が多かったです。

10日目：いよいよ帰国の日。楽しかった10日間もついに終わり、もっと滞在していたいと思いました。

以上が私のフィリピンレポートです。今回の遠征の目的はテニスの強化というより、私たちメンバーはスポーツを通じて日本という国をフィリピンに伝える親善大使だったと思います。私たちが当たり前だと思っている日本の生活は他の国では当たり前ではなく、普通に学校で教育を受けテニスを楽しんでいる私達はとても恵まれていることがよく分かりました。特に両親や先生、コーチ、兵庫県テニス協会のスタッフの方々のサポートがあってこそ練習や試合ができます。これからは周りの人達への感謝の気持ちを忘れず、テニスに取り組みたいと思いました。

I love Philippines.  
I never forget the days I spent here with you.  
It's my treasure.

